

らいふすてーじクロニクル

本誌が京大生協の機関紙として1984年に誕生して以来、今まで多くの記事が書かれてきました。
今回はその中から、特に興味深いと思われるものを採り上げてみます。

The History of Lifestage.
Since 1984 to 2008.
Editor: aNa.

特集 いが京してますが

「いつからだろうか? "いが京" という言葉が差別用語として公然と使われるようになったのは。」

このような導入文から始まるこの記事、内容は京大生のファッション事情についてのようです。

「確かに、同志社などの学生に比べ、京大生のセンスが劣っていたのは事実だ。

しかし、それも過去のことでしかない。教養部へ行けば、京大のファッションエリートの健闘ぶりがうかがえる。」

とのこと。この文章の真偽のほどは不明ですが、京大生も昔からファッションへの意識は持っていたようです。ちなみに「教養部」とは現在の総人キャンパスのことです。ところで、「イカ京」と「いが京」の違いってあるんでしょうか?

特集 元気の出る京都大学の話

現在京大名誉教授の数学者、当時京大の名物教授の森毅氏が京大のあり方から入試制度、過去の大学の雰囲気まで、様々なことを語っています。そんな彼の発言をいくつか引用してみましょう。

「京大はね、妙なことをやるグループが

いて、そのうちのいくつかはずっとやってもやっぱり妙で、いくつかは評判になってく、っていう風だね。」

「だいたい、入試なんて非合理的な制度だよ。だって教育っていうのはアホ入れて賢うすることでしょ。(笑)」

十人十色 これからのパソコン・ワープロ

らいふすてーじの巻末といえば、そう「十人十色」。現在は読者のおかしな投稿と編集部員とのかけあい漫才となっていますが、このコーナーができた当初はマジメな議論の場だったのです。

例えば第3回のこの記事のテーマは、「これからのパソコン・ワープロのあり方と生協に望むこと」と、非常に長くて

マジメなもの。寄せられた投稿もそれを反映しており、読者と編集部員で真剣な議論を交わしています。

今の十人十色からはかけ離れた内容ですが、これもまた京大生の意識の変化の結果といえるのかもしれないね。

らいふすてーじ創刊

1984.6

1985.12



▲記事で紹介されていた京大生のファッション。ノーコメント。

1987.7

執筆者、誕生

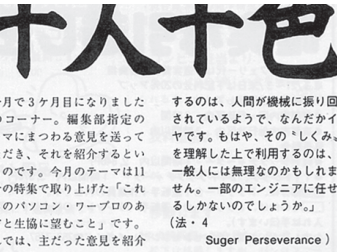
1987.11

らいふすてーじって、京大生の大半よりも年上なんですよ。

はみだしすてーじ、スタート

1990.9

1991.1



(工・3 ポキオ)
(残念、ハズレです;編)

京大探偵団 『怒る人』の正体を調べよ

毎年二次試験の時期になると現れる謎のモニュメント、「折田先生像」。ちなみに今年ではどんまんでした。その折田先生とは果たして何者なのか、という疑問を解消すべく書かれた記事です。

記事によると、折田先生は京大の前身である第三高等学校の設立に尽力し、三高の初代校長としても活躍しました。その一方で、ふらりと寄宿舎にやって来ては生徒と共に風呂に入るような気さくな人物でもあったようです。



ちなみにこの記事、京大の様々な謎に迫る「京大探偵団」の第1号。当時の編集部員は「このコーナーはこの記事のために始まった!」と言い切ったとか。

◀当時の折田先生像。直接胸像を装飾している。現在のハリボテの姿となるのは胸像撤去後。なお、『怒る人』の呼称は「怒っている」という胸像への落書きから。

特集 らいふすてーじ年代記

創刊100号記念企画として書かれた記事です。今回の「らいふすてーじクロニクル」はこの記事を継いだものとなっています。その一つを紹介しましょう。

『『知得コーナー』(1984.9)、今ではもう当たり前の『テレホンカード』。な

んとカードは電電公社製です。」

この記事の「今」も現在では過去のこととなっています。最近ではテレホンカードもあまり見かけなくなりました。やがては携帯電話も過去の遺物となってゆくのでしょうか。

京大探偵団 桂キャンパスに潜入

正式名称は「新入り探偵、桂キャンパスに潜入(?)す」。今ではおなじみとなった桂キャンパスまで、新入り探偵が自転車で調査に行く、という記事。ところがそこにはプレハブしかありません。そう、桂キャンパスは当時まだ全く存在しなかったのです。



桂キャンパスへの工学部の移転は2003年に始まりましたが、未だに完全移転は完了していません。

コラム はみだしすてーじ

読者からの素敵な投稿による「はみだしすてーじ」。その中で特に秀逸だったものをいくつか紹介します。

クロスワードの当選者欄で先輩がまだ卒業できていないことを知った。
(法・4 村人1 2006年4月号)

在学8年、とうとうこの春、京大を「はみだす」ことになりました。
(法・8 微風 1996年4月号)

はみだしすてーじ

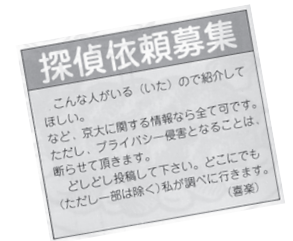
春よ来い。いい加減に来い。いやホント来てください……。
⇒冬の寒さが一段と厳しくなってきましたね。本当に春が待ち遠しいです。

1991.12

シリーズ大学改革 「教養部廃止」

1992.4

総合人間学部の設置や全学共通科目のスタートなど、京大の様々な変化を受けての記事。鋭い論考が冴えます。



1993.4

特集 「カフェテリア・ルネ」

1995.5

京大探偵団 「消えた折田先生」

1997.6

イタズラに業を煮やした京大当局に撤去された折田先生像。しかしその後は手作りの像が現れるように。

2001.4

特集 「京大総合博物館」

2001.6

オープンしたばかりの総合博物館の紹介。社会に開かれた大学の窓口を目指す博物館の姿が描かれています。

特集 「こんにちは医学部保健学科」

2003.12

京大医療技術短期大学が廃止され、新たに医学部保健学科が設立されました。これで現在の京大の学部、学科がほぼ出揃ったことになります。

特集 「らいふすてーじクロニクル」

2008.4

(理・4 Lunar Cat)
(ところで、今は何月でしたっけ;編)